

ほっかいどう民俗芸能伝承eフォーラム

<意見交換の概要>

【参加者】

(略称)

- ・日向神代神楽愛好会（土別市／日向神代神楽） ～（神代神楽）
- ・苫前町くま獅子保存会（苫前町／苫前町くま獅子舞） ～（くま獅子）
- ・羽幌町こきりこ唄保存会（羽幌町／神楽舞・筑子唄） ～（こきりこ）
- ・豊郷神楽保存会（網走市／豊郷神楽） ～（豊郷神楽）
- ・コーディネーター（札幌大谷大学／森教授） ～（コーディネーター）

【1 伝承に当たっての課題について】

（神代神楽）：保存会に入会する人が少ない。

（くま獅子）：笛や太鼓の指導者はいるが、踊りの指導者が少ない。

（こきりこ）：指導者が高齢化している。

（豊郷神楽）：転勤や結婚で地元を離れていく会員がいる。

（コーディネーター）

：人口減により、後継者がなかなか入ってこない、指導者不足という問題がある。

【2 伝承・後継者育成に向けた取組について】

（神代神楽）：会員を一般公募しているが、神楽の活動を知っていても興味関心を持つ方が少ない。

（くま獅子）：町の広報紙等で一般公募。農業の後継者等で地元に残っている若者が入会。

（こきりこ）：数年前、ポスターを町内の公共施設等に貼り公募したが、あまり効果はなかった。

（豊郷神楽）：保存会の会員要件を緩和し、男女・年齢・居住地を問わず一般公募した結果、会員増。

（コーディネーター）

：コロナの時代の中、どのような形で会員を増やしていくかが大きな問題。

PR、勧誘の方法は、まだまだやり方があるのではないかな。

【3 地域の学校との関わり、学校教育における活動内容について】

（神代神楽）：小・中学校のふるさと教育で、踊りや歌詞の内容を講師として指導。

（くま獅子）：小学校の郷土芸能の授業で、獅子舞について説明。

（こきりこ）：毎年、学芸会で小学5年生全員が筑子を実演するため、笛・太鼓・踊り・唄を指導。

（豊郷神楽）：総合的な学習の時間に指導。保護者連絡会を結成し、保存会・保護者・学校で連携。

（コーディネーター）

：豊郷神楽は、学校も含めて地域ぐるみで組織立った伝承の取組をしている。

【4 地域住民との関わり、社会教育における活動内容について】

（神代神楽）：地域から今後も続けてほしい等の声もあり、住民の理解・理解がある。

（くま獅子）：町民は獅子舞の衣装である昔の衣服などを寄付するなど活動に協力。

（こきりこ）：結婚式に呼ばれて披露するなど、個人のお祝いにも出向いている。

（豊郷神楽）：市の行事や流水まつりなど各種行事に参加。

（コーディネーター）

：どの団体も、地域の理解を得ており、個人のお祝いなどアクティブに活動している。

【5 他の民俗芸能団体との連携について】

- (神代神楽)：由来である岩手県一関市の大門神楽と交流していたが、大門神楽の後継者不足により今は交流できていない。今後の交流を一関市文化財課と検討中。
- (くま獅子)：創作した地域固有の芸能のため由来地との交流はない。過去には、苫前町と三重県桑名市の姉妹都市提携の一環で交流をしていた。イベント参加時に他団体と交流。
- (こきりこ)：本家の富山県平村と交流していた。交流を維持することは、行き来や金銭的な面で大変。今後もまた機会があれば交流を続けてきたい。
- (豊郷神楽)：源流である宮城県の角田市君萱の親神楽である仙台神楽の君萱若松神社神楽会一行と交流。また、網走市と沖縄県糸満市は友好都市のため、互いのイベントに参加し交流。
- (コーディネーター)
- ：縦に芸能の由来地や源流調査での交流、横に姉妹・友好都市との交流の取組がある。
 - ：過去に都市部での民俗芸能の披露に関わった時は、反響が非常に大きかった。
 - また、獅子舞などは、中国でも関心があり、広く海外との交流も考えられる。

【6 地域振興や観光とのタイアップについて】

- (神代神楽)：地域振興の取組は、会の体制を整え、これから考えていく。
- (くま獅子)：町の郷土資料館の取組の中で検討。
- (こきりこ)：以前、町内のホテルで宿泊客に披露することを検討したが、実現には至らなかった。
- (豊郷神楽)：市教育委員会のイベントや流氷まつり、観光協会のイベントなどに参加。
- (コーディネーター)
- ：観光での披露は、本来の実施日や場所を変えて行う場合は難しい場合がある。
 - 元々実施している場所・時間に観光客等に来ってもらう方法もある。

【7 活動資金について】

- (神代神楽)：主に会員の会費と神社で奉納した時の奉仕金。
- (くま獅子)：主に会員の会費と町の補助金。
- (こきりこ)：主に会員の会費と町の補助金。結婚式に出向いた場合は、ご祝儀を頂いている。
- (豊郷神楽)：地域の区会資金や奉納神楽の花代（寄付）、公演の謝礼等。道具等の整備は助成事業。
- (コーディネーター)
- ：人口減のため会費の先細りの可能性や市町村の補助金も限界があり、さらに積極的な活動として観光も考えられる。
 - ：活動資金としては、地域の区会や謝礼、一般の観衆からの支援金なども今後一つのモデルとなるのではないかな。

【8 民俗芸能の記録や資料の保存について】

- (神代神楽)：映像を撮ったり、紙の資料として残していく体制を整えているところ。
- (くま獅子)：最近の踊りは動画を保存し、笛や太鼓は譜面がある。昔の映像を探している。
- (こきりこ)：年間の発表の記録がある年と記録の少ない年があり、継続的な記録が必要。
- (豊郷神楽)：源流調査をし、研究して資料としてまとめているところ。

【9 最後に】

- (コーディネーター)
- ：リモートによるフォーラムは、コロナ禍における新しい取組。
 - ：従来の人づてによる継承に加え、動画等の活用で若い人も参加しやすくなるのでは。
 - ：動画の分析解析はA Iの技術が進んでおり、取り組むべき課題の一つになるだろう。